

四川大地震から3年

～ 現地からの報告 「学术交流」で合意へ ～

2008年5月12日14時28分、中国・四川省汶川県を震源として発生した四川大地震は、マグニチュード8.0直下型地震としては世界最大級の規模で、中国政府の報告によると、死者69,197人、負傷者373,176人、行方不明者18,222人、倒壊家屋は21万6千棟、損壊家屋は415万棟という甚大は被害をもたらした。

大地震から3カ年を経過するにあたり、「全国日本経済学会2011年年会」が全国日本経済学会及び四川省社会科学院の主催により、2011年5月、四川省成都で開催された。

主催者の招きで貝原理事長がその開幕式で特別講演を行うことに併せて、「中国・四川大地震復興支援 兵庫神戸委員会」では、交流団を派遣した。

全国日本経済学会2011年年会

日 程：2011年5月6日～9日

会 場：四川省成都

主 催：全国日本経済学会、四川省社会科学院

主な講演者：王 洛 林（全国日本経済学会会長）

貝原俊民（ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長）

周 友 苏（四川省社会科学院常任副院长）

小峰隆夫（法政大学教授、元国土交通省国土計画局長）

張 季 風（中国社会科学院日本研究所経済室主任）



5月7日午後 四川省社会科学院を訪問



社会科学院の入口にある電光掲示板には、「熱烈歓迎貝原俊民先生率 四川地震復興支援兵庫神戸委員会視察団」との文字が・・・

李明泉副院長から活動実績、今後の取り組みなどの説明を受ける。

(右端：李明泉四川省社会科学院副院長)



社会科学院に併設された「汶川震災資料センター」。

人と防災未来センターを参考として資料収集、展示に取り組んでいるとのこと。

5月8日午前 四川省綿竹市の被災地を視察

被害を受けた建物は現状保存され、ガレキは道路を除いて積み上げられていた。町にあった時計塔は震災の発生時刻を指して止まったまま。

町全部を別の場所に移し、被災者の新しい生活が始まっている。



四川省人民政府 李成云副省长と面談

これまでの「中国・四川大地震復興支援兵庫神戸委員会」の活動実績について報告するとともに、設立から3カ年を迎える6月に委員会を解散することを伝えた。今後は、個別の要請に基づき、それぞれ必要な支援を行っていくことになる。

(左から：候水平四川省社会科学院院長、賈松青四川省社会科学院党委書記、李成云四川省人民政府副省长)



四川省社会科学院と「学术交流」で合意書を締結

四川省社会科学院 候水平院長から、本機構との間で、社会科学分野及び災害学分野においての学术交流を行っていききたいとの申出があった。

両者は、友好的な協議に基づき、今後、学者間の交流、共同研究・現地調査・資料収集の協力、研究成果の共同出版などに取り組んでいくとの内容で合意した。



(左側：候水平四川省社会科学院院長)